

「ちばエコ農産物」栽培のために！ (品目別栽培カード 17)



こまつな・夏どり栽培・秋どり栽培

千葉県農林水産部

1 栽培基準

こまつなの「ちばエコ農産物」の栽培基準は、3～5月収穫の春どり栽培、6～9月収穫の夏どり栽培、10～11月収穫の秋どり栽培、12～2月収穫の冬どり栽培に分けられ、化学合成農薬の使用成分回数と化学肥料使用量（窒素成分量）は表1のとおりです。また、堆肥の施用量は2,000kg/10aが目安量とされています。（表1）



収穫間近のこまつな

表1 「ちばエコ農産物」栽培基準における農薬の上限回数と窒素成分の上限量

(平成19年4月現在)

作型	上 限 量		堆肥施用の目安量 (kg/10a)	収穫期
	化学合成農薬 (使用成分×回数)	化学肥料使用量 (窒素成分kg/10a)		
春どり栽培	3	10.0	2,000	3～5月
夏どり栽培	3	5.5		6～9月
秋どり栽培	4	10.0		10～11月
冬どり栽培	3	8.5		12～2月

1 病虫害防除

「ちばエコ農産物」の栽培基準に適合した薬剤防除例を表2に示します。

夏どり栽培、秋どり栽培では病虫害の発生が多く、栽培基準達成のためには、特に害虫防除がポイントとなります。生育初期にはネキリムシ類やキスジノミハムシの被害が問題となり、その後コナガ、ヨトウムシ類などの幼虫による食害が発生します。また栽培が梅雨期や秋雨期に当たる場合、白さび病の発生に注意します。

表2 こまつな（夏どり、秋どり）栽培の「ちばエコ農産物」栽培基準に適合した薬剤防除例

作型	処理時期	農薬名	10a当たり使用量 (希釈倍数等)	対象病虫害	備考
夏どり	6月中旬	フォース粒剤	4 kg	キスジノミハムシ ネキリムシ類	播種時土壌処理
	6月中旬	モスピラン水溶剤	4,000倍	アブラムシ類	発生に応じて使用
	6月下旬	ジーファイン水和剤	1,000倍	白さび病	予防散布
	6月下旬	ランマンフロアブル	2,000倍	白さび病	発生に応じて使用
秋どり	9月中旬	フォース粒剤	4 kg	キスジノミハムシ ネキリムシ類	播種時土壌処理
	9月中旬	モスピラン水溶剤	4,000倍	アブラムシ類	発生に応じて使用
	9月下旬	ジーファイン水和剤	1,000倍	白さび病	予防散布
	9月下旬	ランマンフロアブル	2,000倍	白さび病	発生に応じて使用
	9月下旬	スピノエース顆粒水和剤	2,500~5,000倍	コナガ、ヨトウムシ類	発生に応じて使用

注1) 印は「化学合成農薬に含めない農薬」

ネキリムシ類、キスジノミハムシ対策

ネキリムシ類やキスジノミハムシは幼虫が土中に潜んでいるため、栽培中の薬剤散布だけでは防除が難しい害虫です。雑草や前作物は、これらの害虫を呼び込む原因となるため、早めに圃場を準備し片付けておくことが望まれます。また播種時にフォース粒剤等を土壌施用することが有効です。栽培中のキスジノミハムシ成虫の飛来については防虫ネットのトンネル被覆が有効です。

コナガ、ヨトウムシ類対策

幼虫による葉の食害が問題となるため、防虫ネットをトンネル被覆することで成虫の飛来を防ぐことが必須です。防虫ネットの利用にあたっては、播種直後に防虫ネットをトンネル被覆し、裾を土中に埋め込むことが大切です。防虫ネットは0.8mm目合いで高い防除効果が期待できます。しかし、ヨトウムシ類などの孵化直後の幼虫が、防虫ネットをすり抜けて侵入した場合には、被害発生初期にスピノエース顆粒水和剤等を散布し防除を行う必要があります。スピノエース顆粒水和剤の使用は



防虫ネットに飛来したコナガの成虫

収穫前14日までなので、使用時期に注意が必要です。また、アブラムシの寄生を確認した場合、発生状況を見てモスピラン水溶剤等を処理します。

殺虫剤の使用回数を減らすことが栽培基準の達成に結びつくため、圃場をこまめに観察し、害虫初発時に薬剤を処理することが必要です。また、コナガに対しては、野菜類に登録のあるBT剤（化学合成農薬に含めない農薬）の使用も有効です。

白さび病対策

白さび病は平均気温15 前後で降雨が多いと発生しやすいため、夏どり栽培では梅雨期、秋どり栽培では10～11月にかけて発生に注意する必要があります。耐病性品種や野菜類に登録のあるジーファイン水和剤(化学合成農薬に含めない農薬)の使用によって、殺菌剤の使用回数が減らせます。発生状況によりランマンフロアブルを使用します。

A 夏どり栽培

夏どり栽培は、害虫の発生量が最も多い時期に当たります。他の作型で問題とならないアザミウマやハダニ類による被害が生じる場合もあります。播種時にフォース粒剤を処理し、防虫ネットによるトンネル被覆を行った上で、生育期間中は殺虫剤を適宜使用することが重要です。なお、萎黄病や雑草防除対策などで土壌消毒が必要な圃場での栽培は困難です。



防虫ネットのトンネル被覆栽培

B 秋どり栽培

秋どり栽培は、9月上中旬までの播種は害虫の発生が多く、播種時のフォース粒剤や防虫ネットによるトンネル被覆が必須になります。9月下旬以降の播種は害虫の発生が少なくなりますが、白さび病の発生に注意が必要です。抵抗性品種の利用やジーファイン水和剤を予防散布し、発生に応じてランマンフロアブルを使用します。



収穫したこまつな

2 施肥

「ちばエコ農産物」栽培基準に適合した堆肥及び肥料の施用例を表3に示します。

牛ふんもみから堆肥など窒素等含有量の多い土づくり資材及び有機質肥料を含む複合肥料の施用により、「ちばエコ農産物」の栽培基準の達成が可能です。

ただし、登録名称中に「有機」などが記載された肥料でも、化学肥料由来の窒素を含んでいることが多いので、JAまたは肥料販売業者に問い合わせて、有機質由来と化学肥料由来の窒素の割合を把握しておく必要があります。

表3 こまつな栽培の「ちばエコ農産物」栽培基準に適合した堆肥及び肥料の施肥例

作型	区分	製品名	保証成分量(%)			現物施用量 (kg/10a)	成分施用量(kg/10a)		
			窒素	りん酸	加里		窒素	りん酸	加里
夏どり	堆肥	牛ふんもみから堆肥				2,000			
	基肥	有機アグレット666特号	6(0)	6	6	80	4.8(0)	4.8	4.8
		化成8号	8(8)	8	8	60	4.8(4.8)	4.8	4.8
		苦土石灰				100			
	総施用量							9.6(4.8)	9.6
秋どり	堆肥	牛ふんもみから堆肥				2,000			
	基肥	有機アグレット666特号	6(0)	6	6	160	9.6(0)	9.6	9.6
		化成8号	8(8)	8	8	120	9.6(9.6)	9.6	9.6
		苦土石灰				100			
	総施用量							19.2(9.6)	19.2

注) ()内は、総窒素量のうち、化学肥料由来の窒素成分量

この「品目別栽培カード」に記載した農薬使用は、平成19年度実証試験時点のものです。実際の農薬使用に際しては、ラベルの表示をよく確認するとともに、最新の農薬使用基準を守って使用してください。

著 作 千葉県農林水産部担い手支援課
千葉県農林総合研究センター
編集・発行 千葉県農林水産部安全農業推進課
発行年月日 平成21年3月

内容についての問い合わせ先
千葉県農林総合研究センター
TEL . 043 (291) 9987